

平成25年度第1回天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる
被害防止管理委員会会議録

1 会議の名称	平成25年度第1回天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会会議
2 開催日時	平成25年7月12日 13時50分～15時00分
3 開催場所	富津市役所2階 第一委員会室
4 審議等事項	(1) 平成24年度事業報告及び決算について
5 出席者名	《委員》高橋 恭市、武次 治幸、渡辺 隆二、本吉 貞夫、 高橋 正人、茂田 達也、劔持 壽志、森 孝夫、 甲賀 茂晴、池田 伸二、関谷 康男、池田 文隆、 高木 淳子 《事務局》 (千葉県)平田 和弘、大澤 浩司 (富津市)藤江 洋史、小澤 洋、齋藤 光広 (君津市)矢野 淳一、當眞 紀子、齋藤 唯 (調査団)直井 洋司、萩原 光、白鳥 大祐
6 公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	0 人 (定員5人)
9 所管課	教育部生涯学習課文化係 電話 0439-80-1342
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

発言者	発言内容
富津市生涯学習課 藤江課長	<p>皆様こんにちは、定刻前ではございますが、皆様お集まりですので、始めさせていただきます。</p> <p>本日は、何かとお忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。本日進行を務めさせていただきます。富津市生涯学習課の藤江でございます。ただいまより、平成25年度第1回天然記念物「高宕山のサル生息地」被害防止管理委員会会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日の会議の出席者は全員です。よって、過半数の委員の出席を得ており、本委員会設置要綱第7条第2項により成立しております。</p> <p>会議に先立ちまして、委員長であります、高橋富津市副市長からご挨拶を申し上げます。</p>
高橋 委員長	<p>それでは、皆様こんにちは・ただ今ご紹介のありました4月1日より市の副市長を務めさせていただいております高橋です。同時に当委員会の委員長も務めさせていただきますので今後ともよろしくお願いいたします。</p> <p>委員の皆様におかれましては、公私共にご多忙の中、ご臨席を賜りありがとうございます。</p> <p>また、日頃より富津市・君津市の文化財行政にご理解とご協力を頂きまして深く感謝申し上げます。</p> <p>本日はお忙しい中、千葉県教育庁教育振興部文化財課から、平田 様、千葉県環境生活部自然保護課から大澤 様にお越しいたいただきありがとうございます。</p> <p>昭和62年に設置されました当委員会でございますが、サルや猪等による作物への被害の声が聞こえる昨今、その役割は益々重要なものとなっております。</p> <p>今回の議題は（1）平成24年度事業報告及び決算についてです。</p> <p>様々な立場からのご意見、ご提案をいただき活発な審議をお願いいたします。</p> <p>簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。</p>
藤江生涯学習課長	<p>議題に入ります前に、今年度第1回目の会議でございますので委員長をはじめ、一部委員も変わりましたことから、委員の皆様、事務局の自己紹介の時間をとりたいと思います。</p> <p>恐れ入りますが、お手元の席次表で委員長から右回りに御起立の上、自己紹介をお願いします。</p> <p>(委員自己紹介)</p>

(事務局自己紹介)

続きまして、お手元に配布した資料の確認をお願いいたします。

- 1 席次表と出席者名簿
- 2 会議次第
- 3 当委員会設置要綱
- 4 事業決算書
- 5 被害防止管理事業調査報告書

以上です。不足はございませんでしょうか。

会議の公開についてですが、この会議は、富津市並びに君津市情報公開条例により一般に公開されます。公開の方法としまして、会議の終了後、会議録を作成し、富津市、君津市のホームページにて公開します。

これに伴いまして、会議録が会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するために、委員の中から2名の方に署名委員として署名を頂きたいと思います。

議題に入る前に、2名の方をお選びいただき、後日、ご署名を頂きたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

会議録の作成のため録音させていただきます。

では、本委員会設置要綱第7条第3項の規定により、議長を高橋委員長にお願いします。

高橋議長

規定によりまして、議長を務めさせていただきます。円滑な議事進行を努めてまいりたいと思います。

それでは、議題に入る前に署名委員を2名決めたいと思います。こちらからの指名でよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

茂田委員と剣持委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、議題に入ります。議題(1)平成24年度被害防止管理事業報告及び決算について事務局の説明を求めます。

事務局
君津市
當眞

○事業報告説明（君津市文化振興課 當眞係長）

・ 報告書により説明いたします。

・ 事業目的と計画について、まず最初に、目的は天然記念物「高宕山のサル生息地」のニホンザルを管理し、サルによる農作物等への被害を防止して、地域住民の生活と文化財である野生動物との調和のとれた共存を実現することを目的にしています。平成24年度も昭和55年依頼の事業実績をもとに、T-1群とその群れによる農作物等への被害防止、個体数管理および天然記念物指定地域への安定を目的として実施しました。

事業主体と実施方法は、天然記念物「高宕山のサル生息地」の管理団体君津市および富津市で具体的な事業については、管理団体を中心に天然記念物「高宕山のサル生息地」のサルによる被害防止管理委員会を組織して進める。また事業は「天然記念物「高宕山のサルの生息地」のサルによる被害防止管理事業調査団」への委託により実施する。

事業内容については、平成23年度の実績をふまえたもので、被害防止、生態調査、環境改変を3つの柱に行った。

平成24年度事業計画は、被害防止として既設電気柵の維持管理・被害多発期の追い払いによる被害防止・被害実態調査を行い、次に生態調査と個体数管理としてT-1群の生態と個体数・指定地域とその周辺に生息する群れと個体数と個体数管理を行う。次に天然記念物指定地域の環境改変と生息環境調査を行う。

事業結果報告としては、被害防止については、既設電気柵の維持管理として平成24年度も例年通り本事業対象の電気柵について、地元の調査補助員及び調査員による定期巡回（点検と補修）を毎月行った。富津市宇藤原集落を囲うように設置している周回電気柵は定期巡回に加え初夏から秋にかけて草刈を行った。故障内容はプラス線が金属や草、竹など電気を通すものに接触したことによる電力低下、電柵機本体の故障、バッテリーの充電不足や寿命による電力低下、動物や刈払機等による穴、倒木、竹などによる柵の損傷、強風や積雪による柵の損傷です。

平成24年度は降雪が比較的多く、積雪と強風により電気柵の一部が破損したため、支柱間に短い柱を加え強度を増す修理を行った。また、イノシシ・シカ対策として、防草シートを用いて柵の中が見えないように目隠した電気柵は、効果があったが、強風に弱く維持管理に手間がかかりました。

改修については、平成24年度は富津市宇藤原地区を改修しました。改修前のルートは、集落から離れた山間部で維持管理が非常に困難であったため、今回は集落に近い新たなルートに、地元の協力を得て、設置した。

撤去については、柵の損傷や地盤崩落等が激しく、通常の維持管理作業では被害防止効果が得られない場合や地元から取り外しの要望があり、その電気柵を撤去した。富津市宇藤原地区の一部・高溝地区の一部です。

被害多発期の追い払いによる被害防止については、8月6日から31日まで26日間実施員数は延べ51名で、内ボランティアは4人の協力があった。おもにT-1群を終日追跡・監視に努め、被害が予想される場合は、ロケット花火等を用いて、群を追い払った。指定地域や要現状変更範囲周辺で他の群れの遊動が確認された場合についても、その誘導方向を監視し、必要があればT-1群と同様に追い払いを実施した。

被害実態調査については、3月に天然記念物指定地域とその周辺域の農家を主に対象として訪問して聞き取りで実施しました。調査戸数は宇藤原地区12戸・富津地区24戸・君津地区19戸です。

生体数と個体管理については、テレメーターを装着するために、学術捕獲許可による小型檻を平成24年11月30日から3月29日まで5か所・5基を設置しました。6頭捕獲したが、オスであったためテレメーターを装着しませんでした。本事業とは別に地元の捕獲業者及び君津市農林振興課が、有害鳥獣捕獲によりメス2頭を捕獲し、君津市旅名地区・君津市怒田沢地区でテレメーターを装着しました。なお捕獲個体は外見からは交雑が強く疑われる個体はいませんでした。

テレメーター装着群の追跡調査は、今年度は、昨年に引き続きT-I群、T-II群、石見堂群、及び今年度の新規テレメーター装着個体2頭を含む群れの4群を調査しました。調査はラジオテレメトリー法及び目視によって行い、行動や個体の特徴などを観察しました。また道路を横断する機会などに個体数をカウントしました。

群数調査については、今年度は、天然記念物指定地域の北西部及びその周辺で、11月23日から25日の3日間で群れの生息状況を把握するため区画法による群れ数調査を実施員数述べ31名で実施しました。

近年、石見堂群の行動域が北方へシフトする傾向が見られ、今年度はT-I群と石見堂群が半分重なりました。T-I群は、石見堂群の遊動

	<p>の変化と連動するかのよう、行動域西側の〇〇ゴルフ場付近での遊動が増加傾向にあるものの、西への行動域の大きな拡大やシフトは今のところは見られません。天然記念物指定地域及びその周辺には、昨年までの調査により、15群程度の群れが推測されるが、今年度はT-I群、T-II群、石見堂群、今年度の新規テレメーター装着群の4群について生息状況を把握したが、残りの群れについても、来年度以降順次テレメーターを装着し生息状況を把握する必要があります。</p> <p>個体数管理については、君津市農林振興課・富津市農林水産課より有害鳥獣駆除データより天然記念物指定区域周辺での捕獲を抽出しました。駆除数は君津市93頭・富津市60頭です。</p> <p>以上で事業報告を終わります。</p>																		
<p>富津市 小澤</p>	<p>引き続き決算説明について（「決算書」に沿って説明）</p> <p>歳 入</p> <table border="0"> <tr> <td>（収入額）</td> <td>4,473,000 円</td> </tr> <tr> <td>富津市</td> <td>2,460,000 円</td> </tr> <tr> <td>君津市</td> <td>2,013,000 円</td> </tr> </table> <p>歳 出</p> <table border="0"> <tr> <td>（決算額）</td> <td>4,473,000 円</td> </tr> <tr> <td>報償費</td> <td>48,000 円</td> </tr> <tr> <td>賃 金</td> <td>3,094,000 円</td> </tr> <tr> <td>旅 費</td> <td>364,610 円</td> </tr> <tr> <td>需用費</td> <td>953,478 円</td> </tr> <tr> <td>役務費</td> <td>12,912 円</td> </tr> </table>	（収入額）	4,473,000 円	富津市	2,460,000 円	君津市	2,013,000 円	（決算額）	4,473,000 円	報償費	48,000 円	賃 金	3,094,000 円	旅 費	364,610 円	需用費	953,478 円	役務費	12,912 円
（収入額）	4,473,000 円																		
富津市	2,460,000 円																		
君津市	2,013,000 円																		
（決算額）	4,473,000 円																		
報償費	48,000 円																		
賃 金	3,094,000 円																		
旅 費	364,610 円																		
需用費	953,478 円																		
役務費	12,912 円																		
<p>調査団 直井</p>	<p>補足の説明をいたします。まずは決算書の方から、賃金・旅費が予算額を大幅にオーバーしておりますが、一つは生態調査について、夏の追い払いで学生のボランティアがほとんど参加が見込めなくて、調査員・調査補助員が行ったためです。もう一つは、今、石見堂群が北の方に移動してきました。T-I群と接近して存在している。石見堂群がまだわからないが、群を分派して動いていることがあります。そんなときにそれなりに調査員を多く配置しなければ対応できないためと、電気柵の維持管理については、イノシシ・シカによる電気柵の損傷、あるいは積雪のために損傷で、例年と比べて修理に時間がかかったためです。改修については、宇藤原地区において新しく改修した設置場所の両サイドの樹木を伐採したので資材費より人件費に出費がかかってしまったものです。</p>																		

続いて、事業報告については、被害率と被害指数についてですが、被害調査は農家に聞き取り調査を行っています。被害率とは各作物について聞いた農家のアンケートで何軒が被害にあっているか。要するに10軒聞いた中で何軒被害にあっているかです。

被害指数については、これに被害量を換算しています。

被害のない状態から被害のない状態に重みづけをして〇〇したものです。宇藤原に関しては、減少傾向にあります。宇藤原については確実に被害が減っています。その他の地区宇藤原地区以外では富津地区・君津地区では横ばいで君津地区については、被害件数は増えてきました。ただ難しいのはイノシシによる被害、サルによる被害、ハクビシン・アライグマによる被害なのか、なかなか区別できないという状況です。

平成24年度把握した群れの行動域は、北の方のT-I群、T-II群、石見堂群が、接近した3つの群れとして追跡できたが、他の群れについては、発信機が着いていないため、追跡調査ができていない。

一斉調査に関しては、平成24年度について石見堂群の分派、あるいは分裂して新しい群れの存在が、懸念されたので、それを見つけるための一斉調査とのことで、南の地域については行われなかった。

これまで、一斉調査では、指定地域全体を調査してきたのですが、それはここにサルの群れがいたと毎年わかるだけで同じ群れがどうか、そのあたりが確実にわかるものでないとの反省し、今後は新しく発信機を着けて、サルの群れを確定できる状況にしていかなければならない。

有害鳥獣駆除については、君津市については細かく地図に落としてあるが、富津市については大まかな報告になっています。実際に指定地域に絡む群れの駆除なのか、T-I群か石見堂群かそのあたりが、はっきり分かりづらい報告になっています。君津市のメスザルのデータについては収集が不十分だと思っています。天然記念物の地域のサルの生息数の推移の個体数の管理に非常に重要なことではあるが一つ、もう一つは、指定があまりはっきりしないということは本会議に、県の自然保護課さんがいるが、アカゲザルの交雑の問題があります。どこの群れでどこの地点で交雑がでてきたかは、非常に重要なことになるのですが、県の自然保護課・県の文化財課・市の農林部局と連携をとって、もっときちんとしたデータを取っていけるような体制を取っていきたいと考えます。以上で説明を終わります。

高橋議長

事務局の説明が終わりました。何かご質問等ございますか。

森委員	<p>サルに発信機が着いてないので、把握するのが難しいのであれば、とにかくサルに発信機をつけて、今現在サルの群れがどれくらいいるのかわかれば良いと思う。何年か前に清和地区が、モデル地区の時には、群数は4～5だったが、今その群れがいくつあるのか。小糸地区にもサルが出るとの話があるが、サルを捕獲して発信機をつける計画をやってほしい。私も一生懸命やりますのでよろしくお願いします。</p>
調査団 直井	<p>おっしゃる通りです。24年度後半・25年度も事務局会議においてメインで行っています。発信機を着けることは自然保護課の事業でも大変大事なことです。君津市では小糸川沿いの中島地区に越えて出ている。君津市練木のトンネルをサルの群れが越えてる可能性がある。館山道の君津インターまでサルの群れが出てる可能性があります。それも現在、把握できていません。木更津市との境は人家がないので、情報はないが発信機を着けることは重要なことです。</p>
森委員	<p>サルの捕獲檻はいくつあるのか。</p>
調査団 直井	<p>5基です。</p>
森委員	<p>5基では少ないですね。それでだけは、各地区に檻は置けないですね。</p>
君津市 當眞	<p>調査団の持っている檻は、5基で少ないですが、君津市農林振興課でもこういった事業を行っていますので、連携して行っていきたいと思います。昨年度発信機を着けたメス2頭については、捕獲檻で捕まえて、連絡を受けた調査団が、発信機を着けた経緯があり、地区の方のご理解を頂き、少しずつでもこのように連携を持って行っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。</p>
高橋議長	<p>他にいかがでしょうか</p>
池田委員	<p>この事業が始まって30年になると思いますが、指定地域にサルがいるのはこの地域だけではないです。県も事業を行っているので、本日この会議に見えている県の自然保護課の説明がほしいのですが。</p>

高橋議長	<p>議事終了後、県の担当から話を聞きたいと思いますので、しばらくお待ちください。他にいかがでしょうか。ありませんでしょうか。質問もないとのことで、終了させていただきたいと思います。</p> <p>ご異議はありますか。</p> <p>異議なし。</p>
高橋議長	<p>ご異議もないとのことで、平成24年度被害防止管理事業報告・決算について、ご承認いただけますか</p> <p>異議なし。</p>
高橋議長	<p>本件は承認されました。</p> <p>それでは、その他と言うことで、本日千葉県文化財課から平田様が見えております。平田様 何かございますか。</p>
千葉県文化財課平田主任 上席文化財主事	<p>池田委員のご指摘に関して、県文化課の対場として申し上げます。国の指定天然記念物に関しましては、県が単独として何かをするというのはまずありません。あるとすれば国の補助という形で補助を受けて、それに対してグンカンというシステムしかないです。したがって今現在としては、管理団体である富津市と君津市に事業をお願いしているところが、事実です。大変いつもご苦勞をかけていますが、サルに発信機を着ける事業の拡大について今後なんらかの形で、国の事業としてあるので、協力しいただけるとと思いますので、県の方も動けるかと思っておりますのでよろしくお願いたします。</p>
高橋議長	<p>平田さんの意見に対して、ご質問はありますか。よろしいでしょうか。では、同じく自然保護課から大澤さん何かございますか。</p>

自然保護課 大澤	<p>自然保護課では、特定鳥獣保護計画現在では第3次計画に基づいて、行っています。</p> <p>ただし、近年調査団の直井さんの方から話がありましたが、アカゲザルの交雑の問題について、ここ数年アカゲザルの交雑対策に予算を費やし力を入れています。お金を効率的に使うという観点でそちらの方に優先で取り組むということで、県内のニホンザルの群れの把握については手をつかずに状態です。</p> <p>交雑問題については、今年度環境省は千葉県のアカゲザルの交雑対策の事業を起こしました。まだ事業を開始してないが、業者選定の入札を行いました。環境省が手を入れてきたことで、県としても国と棲み分けをしつつ、役割を果していきたいと思えます。</p> <p>群れの把握は大事で、サルは群れで行動する動物ですので、イノシシ・シカの管理とはまた違いますので、ニホンザルの場合は、群を把握した中で、管理するのが重要だと思います。県の事業の中でも、頭数は少ないが市町村の有害捕獲で捕獲されたサルの個体について発信機を着ける事業を行っている。希望される市町村については、県に相談していただければ、予算の範囲内で事業を進めていきたいと思えますので、連携して発信機の装着について、よろしくお願ひします。</p>
高橋議長	<p>質問等ございますか。</p>
森委員	<p>今の話で、調査、捕獲するのに檻とかはありますか。</p>
自然保護課 大澤	<p>自然保護課には、そういった予算はないです。国の農水省の事業の交付金事業のなかに、捕獲が対象になっている事業があると思ひるので、そちらを活用していただくことになると思ひます。自然保護課の方としましては、市町村が実施している有害捕獲の事業に対しての補助金で、捕獲檻については、農林サイドの事業です。</p>
剣持委員	<p>捕獲についてはサルの檻ですか。</p> <p>サルの檻ではなく全般的な檻で、サルではなく野生鳥獣対策で、サルの檻とイノシシの檻とは違います。サルの檻は補助の対象外ではないですか。最近、富津市田倉のエンゼルカントリークラブにサルによる被害が増えてきました。それで檻により捕獲し、発信機を着けて追い払いを</p>

	<p>しようとしたが、探しているんですが、なかなかサル対策につかえる補助金がないので、今後、県の方もサル対策に使える補助金をお願いしたい。</p>
高橋議長	<p>その他、何かございますか。ご意見等ないようですので、議長の職を解かせていただきます。 長時間に渡り、御審議ありがとうございました。</p>
藤江課長	<p>以上をもちまして、平成25年度第1回高岩山サル被害防止委員会を終了させていただきます。</p>